

人間五十年と百年人生

織田信長は、幸若舞『敦盛』を愛し、「人間(じんかん)五十年、下天(げてん)の内をくらぶれば、夢幻の如くなり」の部分をよく舞っていたと伝えられている。天下統一を目前にしていた信長は本能寺の変により48歳でその生涯を閉じたが、当時の日本人の平均寿命は50年未満であった。

幸若舞『敦盛』は、源氏と平家との争いが続いていた時代、一の谷決戦に平家総大将として初陣した若干16歳の平敦盛を討ち取った源氏の老将熊谷直実の物語である。平敦盛が熊谷直実に追われ、平敦盛と熊谷直実が1対1の立ち合いの結果、平敦盛は討ち取られたのであるが、敦盛と同年の息子を戦で亡くしていた熊谷直実は、敦盛を不憫に思い平敦盛の形見の品々を平家に送り届けた。平家の人々の嘆き、熊谷直実の手紙、平敦盛の父親経盛の自筆返状などの場面に続いて、熊谷直実が出家を決意して世の中の儚さを謳いあげる中段後半の一節は以下のようなものである。

思へばこの世は常の住み家にあらず
草葉に置く白露、水に宿る月よりなほあやし
金谷に花を詠じ、榮花は先立つて無常の風に誘はるる
南楼の月を弄ぶ輩も 月に先立つて有為の雲にかくれり
人間五十年、下天のうちを比ぶれば、夢幻の如くなり
一度生を享け、滅せぬもののあるべきか
これを菩提の種と思ひ定めざらんは、口惜しかりき次第ぞ



織田信長は後段太字部分を特に好んで演じたと伝えられている。下天(げてん)とは、仏教六道のうち一番上の世界である天道の中で一番下の世界である四大王衆天を指している。六道とは、上から順に、天道、人間道、修羅道、畜生道、餓鬼道、地獄道の六つの世界を指す。下天(四大王衆天)の一日は、人間界の50年に相当するとされている。「人間(じんかん)五十年、下天(げてん)のうちを比ぶれば、夢幻の如くなり」は、人の世の50年間は天界の時間と比すれば短いものであり、夢幻のように儚いものだというほどの意味であり、仏教における六道の時間の流れの違いを述べているのである。人間の寿命はたった50年と言っているのではないが、人間(じんかん)の人と間という字は、そのまま人間(にんげん)五十年とも読めることから、元の意味から離れて、人間(にんげん)の人生50年という通俗的な解釈もなされてきた。

第二次世界大戦後に日本人の平均寿命は延伸し、2023年には男性81.05年、女性87.09年となった。平均寿命は現在も伸び続けており、平均寿命の延伸は、世界に冠たる超高齢社会をもたらした。平均寿命の延伸により、百歳以上高齢者(センテネリアン; centenarian)の数も急速に増加している。

わが国のセンテネリアンについては、政府による百歳以上高齢者の顕彰制度が始まった1963(昭和38)年からの統計がある。

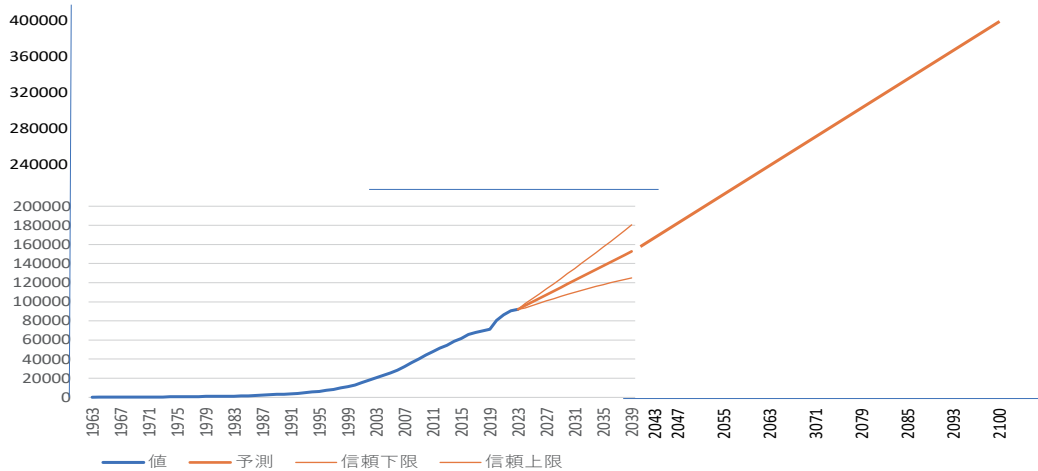
1963年にはわずか153人であったセンテネリアンは、1981年に1千人を超え、1998年に1万人、2012年に5万人、2020年に8万人を越えて、2023年には9,2139人となった(表A)。

A		B	
年	センテネリアン数	年	センテネリアン数
1963	153	1984	1563
1964	191	1985	1740
1965	198	1986	1851
1966	252	1987	2271
1967	253	1988	2668
1968	327	1989	3078
1969	331	1990	3298
1970	310	1991	3625
1971	339	1992	4152
1972	405	1993	4802
1973	495	1994	5593
1974	527	1995	6378
1975	548	1996	7373
1976	666	1997	8491
1977	697	1998	10158
1978	792	1999	11346
1979	937	2000	13036
1980	968	2001	15475
1981	1072	2002	17934
1982	1200	2003	20561
1983	1354		
		2004	23038
		2005	25554
		2006	28395
		2007	32295
		2008	36276
		2009	40399
		2010	44449
		2011	47756
		2012	51376
		2013	54397
		2014	58820
		2015	61568
		2016	65692
		2017	67771
		2018	69785
		2019	71274
		2020	80450
		2021	86510
		2022	90526
		2023	92139
		2024	95932.47006
		2025	99720.14524
		2026	103507.8204
		2027	107295.4956
		2028	111083.1708
		2029	114870.846
		2030	118658.5211
		2031	122446.1963
		2032	126233.8715
		2033	130021.5467
		2034	133809.2219
		2035	137596.897
		2036	141384.5722
		2037	145172.2474
		2038	148959.9226
		2039	152747.5978
			センテネリアン数 信頼下限
			センテネリアン数 信頼上限
			センテネリアン数 信頼上限

表 (A)わが国のセンテネリアン数の推移(1963-2023)と(B)将来予想

基本的には、わが国のセンテネリアン数は右肩上がりに増加してきているが、この統計値に基づいた日本のセンテネリアン数の将来予想は、2030年には12万人、2039年には15万人となる(表B)。さらに、2000年生まれがセンテネリアンとなる2100年のセンテネリアン数を予想してみた。図に示すように、2100年のセンテネリアンは約40万人となる。これは、2000年生まれの者(119万人)の約1/3に相当する。簡単に言うと、2000年以降に生まれた者の1/3以上がセンテネリアンになるという予想となった。

2100年のセンテネリアン数の予想



本年3月に本学を卒業する学生たちの多くは、2000年から2002年生まれの者である。したがって、彼らの1/3はセンテネリアンとなると予想されるのであるが、百年人生の計画を立てて有意義な人生を送ってほしいと思う。

信長が愛した幸若舞『敦盛』には、人生を考える上での重要なヒントがある。謡の全文と現代語訳を掲げておくので、参考にして百年人生の設計を立ててほしいものである。

思へばこの世は常の住み家にあらず
 草葉に置く白露、水に宿る月よりなほあやし
 金谷に花を詠じ、榮花は先立つて無常の風に誘はるる
 南楼の月を弄ぶ輩も月に先立つて有為の雲にかくれり
 人間五十年、下天のうちを比ぶれば、夢幻の如くなり
 一度生を享け、滅せぬもののあるべきか
 これを菩提の種と思ひ定めざらんは、口惜しかりき次第ぞ

(現代語訳: 思へばこの世は無常である。草葉についた水滴や水に映る月より儂いものだ。晋で栄華を極めた金谷園(きんこくえん)も風に散り、四川・南楼の月に興じる者も変わりゆく雲に被われ姿を消した。人間界の50年など下天(化天)での時の流れと比べれば夢や幻も同然で、ひとたび生まれて滅びぬものなどあるはずがない。これを悟りの境地と考えないのは情けないことだ。)